

はじめに

情報通信技術 (ICT: Information and Communication Technology) の利便性が格段に発達し、誰もがコンピュータを利用する時代になった。一方、大学生のコンピュータに関する知識や操作スキルの格差は大きい。多くの大学生は、独学または高校の授業で少しやった程度であり、コンピュータの活用能力がまったく身につけていない大学生も少なくない。なぜこのような問題が起こるかと言えば、近年のコンピュータは、ある程度感覚的に利用できてしまうからである。したがって、コンピュータを苦手としていても、そこそこ操作はできてしまうため、その性能を最大限に引き出すよう意識した使い方をしていない。コンピュータを活用できる社会人と、そうでない人の違いは、コンピュータの仕組みや、その効果的な活用方法を体系的に理解し、明確な目的をより意識して活用できているか、そうでないかである。

本書は、コンピュータを活用する能力を身につけるため、より深い理解を目的とした教科書である。第1章では Microsoft Windows10 の基本やコンピュータの基礎知識、インターネットの仕組み、第2章では Microsoft Word を利用した基本的な文書作成から長文のレポート作成、第3章では Microsoft Excel による表計算からデータベース、第4章では Microsoft PowerPoint を利用したスライド作成からプレゼンテーションの実践、さらに、オンラインプレゼンテーションの方法なども網羅し、これらの知識と操作スキルを体系的にまとめた。大学生が、目標となる知識や技能を身につけるために、十分な基礎力を高めつつ主体的に取り組める意識を持って授業に臨むと、より効果を発揮するだろう。

本書の特徴として、大学生が必要とするコンピュータの知識と操作スキルが、無理なく身につけられるように構成されている。知識に関しては、時々の最先端技術を知るのみでなく、将来的に様々な問題に対処できる知恵の基礎となる知識であり、最先端の知識がいずれ陳腐化することも念頭に置き、知識を知恵に変えていくことに焦点を置いた。また、コンピュータの操作スキルに関しては、「1. 操作説明→2. 理解度の確認→3. 理解の深化」の流れで構成し、さらに演習をこなすことで、少しずつ慣れながら操作の技術を向上できるように展開していく。また、コンピュータが苦手な学生に配慮して作成しているため、ポイントを押さえた解説が用意されている。

学習から得た知識と経験から、学生生活だけでなく就職活動や社会人生活で実益を生み出せるよう、筆者の10年以上にわたる教育経験と研究グループによる情報教育研究の成果を1冊にまとめた。本書を利用して、「コンピュータを最大限に利用し、いかに楽をして作業を行うか？」という発想力を養い、本書を踏み台にして、さらにコンピュータの能力を最大限に引き出す高度な知恵を持つ高みを目指してほしいと切に願う。本書がそのための一助となれば、これに勝る喜びはない。

本書を執筆にするにあたって、ご助言をいただいた協力者の皆様、そして、本書の企画・編集を進めていただいた共立出版株式会社の清水隆氏、寿日出男氏、中川暢子氏に感謝する。また、本書は、『学生のためのコンピュータ活用』『文系学生のための情報活用』を経て、世に出ることとなった。前教科書を採用していただいた各大学の情報処理演習を担当する先生方には、実際に利用してもらい、多くのご指摘やご助言をいただき、学生からの激励の言葉もいただいた。この場を借りて心からお礼申し上げる。

2021年1月

立野 貴之